

令和7年度 磯子地域ケアプラザPDCAシート_公表用（事業計画書、事業報告書、事業実績評価）

—総括表—

◆ 事業計画

☐ 地域の現状と今後の方向性

磯子駅周辺は、高齢者世帯、特に一人で暮らしている方が多い地域です。公共施設や医療機関、スーパーなどの商業施設があり便利なことからも、今後も高齢の方の転入は多い地域だと考えられます。

駅から離れた丘陵地は、景観が良く、静かな住宅地が広がっています。しかし、公共交通の便が悪く、医療機関や商業施設が不足しているため、外出や買い物等の生活課題があります。現在、コンビニ、スーパーの移動販売、スーパーの買物バス運行サービスが始まっています。

子どもに関しては、減少傾向ではありますが、居場所づくりや学びの場が必要です。「子ども食堂」や「学習支援グループばるーん」など、ボランティア中心で運営している事業を支援します。

高齢化が進む中、介護予防、認知症予防など求められています。積極的に地域へ伺い、参加する機会を作ります。また、地域の繋がりが薄れている中で、地域包括ケアシステムを推進するために、地域での見守りや介護予防、認知症予防、居場所づくりに努めていきます。そのための担い手支援も行います。

☐ 今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
■	☐	各自治会町内会や、地域活動グループの後方支援をする。また、磯子台自治会の住民の集いの場としてサロン活動を新たに立上げを検討する。
■	☐	認知症キャラバンメイト中心の居場所の支援「集いのカフェ」、「介護者のつどい」などを継続する。チームオレンジの取り組みとして、「集いのカフェ」を活用し、認知症の理解を深める事業を実施する。
■	☐	コグニサイズ講座から立ち上がったグループ「らくらく」、継続して実施していた男性のためのレコード喫茶「メモリーズ」の自主化に向けての支援を行う。
☐	■	磯子三丁目団地にて福祉・保健に関するイベントや相談会を行い、多くの方に相談窓口や支援の情報提供を行う。
☐	■	森一丁目地区の方を中心にフレイル予防、ロコモ予防、認知症予防の講座を講師を招いて行う。また、森一丁目の多くの高齢者が利用しているコナミスポーツクラブと連携した講座を行う。

◆ 事業報告・事業実績評価

☐ 振り返り

第4期地域福祉保健計画の最終年は新たに始まったチームオレンジや新たに立ち上がった自主事業グループ、サロンなど、新しい取組が始まる年でもありました。

来年度より第5期地域福祉保健計画がスタートします。「誰もが幸せに暮らせるまちをみんなでめざす」ことを目標に地域の皆様とともに進めていきたいと思っています。

☐ 区からのコメント

今年度は第5期地域福祉保健計画の地区別計画策定支援にもご尽力いただきました。磯子地区で力を入れたいことの達成支援のため、引き続きご協力をお願いいたします。

また、地域ケアプラザや活動団体に関する広報を行っていただきました。区としても積極的に広報・周知していきますが、身近な地域福祉保健の拠点であることがより多くの方に伝わるような取組をお願いいたします。

UR三丁目団地での合同相談会やわくわくフェスティバルなど、多機関連携による取組を通じて、相談先の周知や地域連携が着実に広がっています。森1丁目での介護予防連続講座や「こいそCollege」等では、駅周辺と丘陵地それぞれの地域特性に応じた参加機会の創出にも取り組まれています。また、民生委員・ケアマネジャー連絡会との協働や、資源情報ガイドの整備など、支援の基盤づくりも進めていただいています。今後も、男性の参加促進や自主活動の支援を進めながら、地域全体での見守りの仕組みづくりを推進いただけますようお願い致します。